

ディスプレイ制作による技術向上

1. 目的

インターンシップや国内視察研修を通して、「魅せて売る」ためにはディスプレイの大切さを知った。

将来、お店の雰囲気作りや商品制作に携わっていく中で、どのようにしたらお客様が買いたいと思っていただけるのか、植物を「魅せて売る」ディスプレイ方法を身に付けたいと思い目標とした。

2. ディスプレイ作品

- (1) 「扉を開けたらそこは」
- (2) 「癒しのその先に」
- (3) 「団結」

3. まとめ

園芸装飾の授業でディスプレイした時はそれぞれの意見がぶつかり、納得できるディスプレイができなかったが、卒業研究ではテーマを決め1人で納得できるディスプレイを作り上げることができた。納得できるものをこだわって制作するにはディスプレイも花束もそれぞれのフォーカルポイントと花材や植物選びの重要性を強く感じた。また、土台の使い方や植物の魅せ方などを学び、「魅せて売る」技術や知識をこの卒業制作で研究できた。様々なテーマでディスプレイをすることによって植物の魅せ方や特性の活かし方を知ることができとても勉強になったが、自分が持っている知識や技術の引き出しが足りないため、土台の使い方が間違っていたり、植物の特性を活かしきれていないと感じた。

納得できるディスプレイになるまで何度もやり直したため、制作に1日以上かかってしまった。それ以上に、ディスプレイや花束のデザインを考えたり、植物を運んだり資材を集めたりと準備にかけた時間は制作時間の何倍もかかって大変だということが学ぶことができ、制作する前の下準備はとても大切だと思った。また、技術の習得に特化したため、いくらかのディスプレイを制作しているのか自分の中で金額を考えておらず把握ができていなかった。仕事となるとそうはいかないと思う。「時は金なり」ではないが、制作にかかった時間の人件費、仕入れた植物の原価など、まだまだ働く上で足りていないことが多いため、仕事で必要になる技術やスピードを身に付けていきたい。

将来、授業で学んだことや卒業研究で学べたことを生花店でディスプレイや花束を制作する際に自分もお客様も納得していただける「魅せて売る」ディスプレイを制作していきたい。



ディスプレイ作品「扉を開けたらそこは」



ディスプレイ作品
「憧しのその先に」



ディスプレイ作品
「団結」